

(様式第4号)

上田市消防委員会 会議概要

1 審議会名	第1回上田市消防委員会
2 日 時	令和7年8月5日 午後1時30分から午後3時10分まで
3 会 場	上田地域広域連合消防本部 3階 大会議室
4 出 席 者	荻原会長、堀内副会長、小島委員、富岡委員、中山委員、滝沢委員、室賀委員、馬場委員、唐澤委員、掛山委員、滝澤委員、三井委員、下城委員
5 市側出席者	山田危機管理防災課長、小山危機管理防災課課長補佐、井出危機管理防災担当係長、高畑消防団担当係長 斎藤消防部長、吉田消防予防課長、竹村消防警防課長 福澤上田市消防団長、宮原上田市消防団副団長、山岸上田市消防団副団長、北沢上田市消防団副団長
6 公開・非公開	公開 • 一部公開 • 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和7年8月8日

協議事項等

- 1 開　会（消防団担当係長）
- 2 あいさつ（危機管理防災課長）
- 3 自己紹介
土屋委員欠席
- 4 正副会長選出

消防団担当係長から会則により互選とされていることを説明、選出方法の意見を求める。

委員から事務局一任の発声があり、事務局から会長、副会長を指名し委員の賛同により決定される。

- 5 報告事項

(1) 上田市消防委員会について

- ・資料に沿い、危機管理防災課長から上田市消防委員会条例について、令和3年度令和4年度の諮問答申の概要を説明（資料番号1-1、1-2）
 - ・上田市消防委員会は条例に基づき設置され、消防行政の円滑な運営を目的とした施策の審議を行う。
 - ・委員は14名以内で構成され、任期は2年（自治会連合会推薦の委員は1年）。
 - ・消防団の活動は地域防災力の向上に寄与しているが、少子高齢化や社会環境の変化により団員の確保が困難。
- ・以降、質疑

（委員） 出動報酬に関して、1日上限8000円と決まっているが、数日間にわたる出動の場合はどうなるか。

（事務局） 原則的に規定された3段階の支払い区分で1日の上限で支払う。8時間は労働時間という概念と安全管理を含め、連続性の無いよう交代制をもって対応している。

(2) 上田市消防団の概況について

- ・資料に沿い、上田市消防団長から上田市消防団の概況について概要を説明（資料番号2）
 - ・上田市消防団は1542名で構成され、平均年齢は39.66歳と比較的若い。
 - ・女性消防隊員は79名、学生団員は11名と増加傾向にあるが、団員確保が課題。
- ・以降、質疑

（委員） 団員の確保が難しい中で長く消防団を続ける団員もいる。勤務する会社の理解が得られないという声も聞くが、各企業に対し理解、協力を求めるようなことはあるか。

（事務局） サラリーマン団員が8割以上の現状で、勤め先の理解も非常に重要と考えている。上田市では、消防団員の出動に対して協力をいただく企業に対し、法人事業税の減免など優遇制度を定める消防団協力事業所制度の要綱を設置している。現在市内85の事業所が登録されている。新規企業の開拓など企業回りも行っている。

(3) 上田市消防団の取組事項について

- ・資料に沿い、山田危機管理防災課長から制度の制定・改定、消防団員の確保、消防団員の負担軽減に対する取組について概要を説明（資料番号3）
 - ・団員の報酬増額や出動報酬の新設、準中型自動車免許取得助成事業の創設など、団員の待遇改善を進めている。
 - ・学校訪問やPR動画の作成などを通じて、消防団活動の周知と団員確保を図る。
 - ・負担軽減策として、訓練や式典の効率化、リモート会議の導入などを実施。

質疑等なし

(4) 消防団装備品等導入状況について

- ・資料に沿い、山田危機管理防災課長から消防団に導入している装備品等の導入状況について概要を説明（資料番号4）

- ・以降、質疑

（委員） 消防団車両の更新はどのくらいで行っているか。

（事務局） ポンプ車は概ね20年、小型動力ポンプ付積載車は概ね25年で更新し緊急時の対応力

を維持している。

- (委 員) 負担軽減と言われているが、団員は消防団として基本的なことができるようにしてほしい。
- (委 員) 消防は火事だけでなく人命救助もあるが、AED の設置場所を周知する対策も必要。
- (事務局) インターネットなどでも確認できるが消防署の通信指令室でも案内できる。
- (委 員) 自治会でも人数が減ってきている。分団の班の合併などの動きはあるか。
- (事務局) 分団の編成は地域により異なる。分団が活動の基本となっているので、活動しやすい班編成などは各分団に任せている。
- (委 員) 今年度のポンプ操法ラッパ吹奏上田大会を見たが、私の現役の頃と比べ大会運営などの省力化など工夫されていて勉強になった。続けていってほしい。
- (委 員) この会議中に救急車が2台出動した。受入れ先がなかなか決まらないような話を聞くが、改善されているのか。
- (事務局) 医師会でも対策を進めているところで、消防もそこに関わらせていただいている。
- (委 員) 火事があったとき、自主防災組織として初期消火作業をしてもいいか。
- (事務局) 危険を冒すことの無いように状況に応じ、初期消火していただきたい。
- (委 員) 現役の消防団員がいる地区は後輩を消防団に入団いただく要素が高い。他の自治会の方に対しても面識のある方へ声をかける方策も良いと思う。
- (委 員) 団員確保は終わりが見えない。階級が上まで行った消防団員が役職を終えて一般団員で活動することに関し、周りの団員はやり辛さを感じないのか。
- (事務局) 私も消防団員だったころ、役職の任期を終え団員としてサポートした経験がある。それが負担と感じる場合もあると思うが、団員が足りない中で、これまで築いてきた絆などから、できる範囲の手伝いなどでサポートしようとする意識を作っていくことも上に立つ者の役割だとも考える。
- (委 員) 分団の分団長や副分団長と一緒になる機会が多いが、大変多くの場に出席されている。負担軽減の取り組みとしてメール配信で済む会議など細かな見直しも必要ではないか。
- (委 員) 消防団員には地域に対しての責務があることを教育し認識していただきたい。

6 その他

- ・事務局から事務連絡

7 閉会